

(財)日本医療機能評価機構認定病院

地域医療支援病院

盛岡赤十字病院地域医療連携室広報誌



LEAF

令和2年3月

第38号

盛岡市三本柳 6-1-1

盛岡赤十字病院

地域医療連携室

発行責任者 院長 松田壮正

<基本理念>

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、
みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



連載 シリーズ 診療科紹介：神経内科

特集 身体拘束最小化の取り組み
患者さんのご紹介・ご予約に関するお願い

連載 周産期部門の御案内



●神経内科部長就任の挨拶と診療内容の紹介

神経内科部長 米澤久司

この度、大学院時代を含めると30年以上在籍した岩手医科大学を退職し2019年11月1日から当院神経内科に着任いたしました。

神経内科は「分からない」「治らない」「(でも)諦めない」と昔から言われてきました。治らないからこそ、介入できる病気はできる限り寛解させ、難解な病態も諦めず診断し、患者に寄り添いながら可能な限りのサポートをするよう心がけております。

7年ほど前に運動神経疾患の15歳の少年の診断に携わりました。診断は脊髄性筋萎縮症で当時は治療法が確立していない難病でした。絶望的な状況を本人・家族には説明しましたが、それから5年たちヌシネルセン(スピンラザ)という薬が販売され進行抑制が可能となりました。このように遺伝子関連の進歩やiPS細胞の出現などにより根本の病態が次第に明らかになってきました。免疫療法もステロイド以外の治療法が数多く出現し、治療薬や治療への道筋が以前に比べて解明されてきています。

現在、みなさまの医院・病院や施設とどのような医療連携が必要かにつき思案中です。岩手医大に脳卒中センターが開設されましたので、そこの棲み分けもこれからは大事になりそうです。

当科着任後の短期間にすでに多数の認知症例をご紹介いただいておりますが、神経難病と共に専門外来の開設を計画中です。また慢性～急性に手足の動きが悪い、痺れる、喋りにくい、飲み込みにくい、痛みもないのに歩けない等の方、頭痛や痙攣、めまい、過眠、心疾患を否定した意識消失発作の方がいらしたら、ご紹介ください。

診療体制は私と齋藤あゆみの二人でさせていただきます。二人とも神経内科専門医で頭痛専門医であります。夕方から私の一人体制になっており人的資源はまだ充分ではなく、思うような診療体制とは言えませんが、なんとか皆様のお役に立てる医療連携ができるよう努力して参りたいと思います。

神経内科外来について

診察日時

月曜から金曜
8時45分～11時

受診方法

外来申込書と診療情報提供書を当院地域医療連携室へお送り頂き、その上で外来日のご案内を致します。

地域医療連携室
予約受付時間

【F A X】019-637-3313(専用)

【受付時間】平日8:30～16:50

【電話】019-637-3312(直通)

【受付時間】平日8:30～17:00

※休日

土日祝日・創立記念日5月1日・
年末年始12月29日～1月3日

身体拘束最小化への取り組み

身体拘束最小化チーム 小田切 宏 恵

身体拘束は何のために、誰のために行うのでしょうか。その判断理由として、第一に転倒予防、第二にルート自己抜去予防が挙げられています。生命危機に関連する大切なチューブを抜くかもしれない、転倒・転落するかもしれない、説明しても理解してもらえない…。患者さんにとっての最善を多職種で考えるために、認知症サポートチーム（DST）の活動の一環として、身体拘束最小化プロジェクトを立ち上げました。

転倒・転落やルート自己抜去といった事故は、夜中や早朝に眠れないために発生するケースが多くありました。そこで、医師の必要指示が患者さんにとって更に適切なものとなるよう、標準化した不眠・不穏時の薬剤指示を電子カルテにセットメニューとして組みました。当院の医師達から「これは使える！」と評価を貰い、DSTにせん妄指示は任せよう、という流れになりました。

せん妄予防はケアから始まります。良いケアを提供できた事例から、良いケアを振り返っています。実践したケアや継続されているケアを、記録から読み取れるように変化させました。環境調整や声掛け、タッチングの重要性を再認識しました。

現在院内では車椅子ベルトをほぼ使用していません。これは、看護部と病院の「高齢者にやさしい病院をめざす」という方針が、職員の意識改革の支えとなったと考えます。また医療安全管理者が「患者さんの拘束をやめたとしても、転倒・転落の発生件数は変化ありません」と言ってくれたおかげで、活動が一気に促進されました。これからも職員一丸となり、身体拘束最小化への取り組みを進めていきます。



患者さん御紹介・御予約に関するお願い

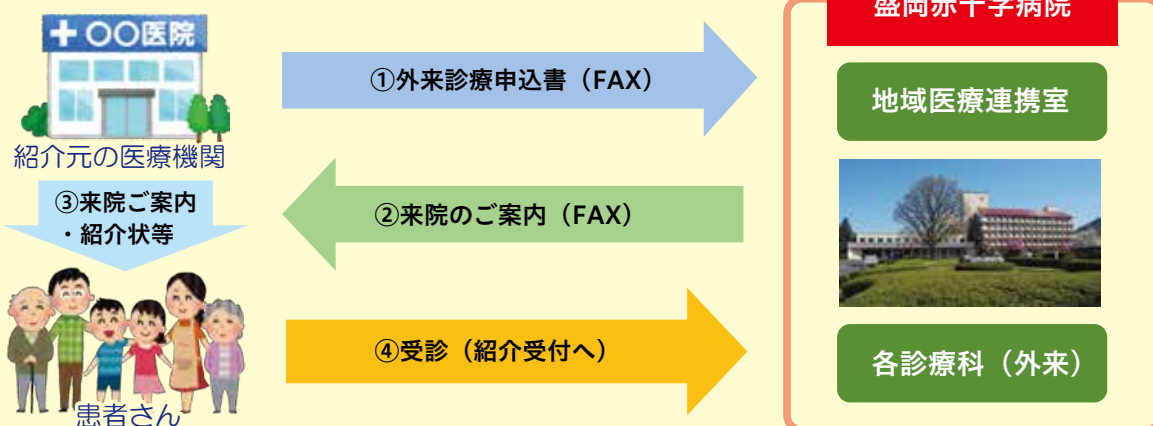
地域医療連携室

当院では、紹介状持参の患者さんについて、できる限り優先的な配慮をさせていただいております。当日は予約患者さんが優先されますので、事前に地域医療連携室にて受診予約をとっていただくことをお勧めしております。

地域医療連携室 予約受付時間

[FAX] 019-637-3313(専用) 平日 8:30~16:50
[TEL] 019-637-3312(直通) 平日 8:30~17:00

予約紹介患者さんの流れ



周産期部門のご案内

当院は、岩手県地域周産期母子医療センターとして、産科・小児科・麻酔科が協力し主に妊娠34週以降の周産期管理を行っております。地域からの周産期救急搬送に対応しております。ハイリスク妊婦や里帰り出産のご紹介も多く頂いております。

地域の先生方に当院での周産期管理について知っていただくことで、安心してご紹介いただけるよう、3回のシリーズで当院の周産期部門のご案内をさせていただきます。第1回は、「**妊娠期の管理**」についてです。



妊婦健診（医師）

4名の医師が担当し妊婦健診を行っております。



保健指導

医師の妊婦健診の際、助産師による保健指導を定期的に行っております。



助産師外来

医師と助産師が連携し、安心して出産に望めるよう、妊婦さんをサポートしています。



母親学級

立会い出産も可能なため、分娩期の教室にはパートナーと一緒に参加される方も多いです。



マタニティピクス・マタニティヨガ

出産と育児に向けたところと身体づくりのため、専任のインストラクターを招いて開催しております。当院で妊婦健診を受けている妊婦さんは無料で参加することができます。



次回（第2回）は、「**分娩期の管理**」についてご案内させていただきます。